

第3回鴨叡会・生命分子化学科セミナー報告書

2011年12月12日(月)の午前10時30分から、京都府立大学6号館66教室において、英国 Rothamsted Research の主任研究員である Prof. Steve McGrath による講演が行われた。講演題目は、"Bioavailability and ecotoxicity of metals in soils"(土壌中の金属の生物に対する可給度と毒性)であり、聴講者は、京都大学からの参加者も含め、京都府立大学の学部学生と大学院生を中心に、約20名であった。

講演では、推定無毒濃度(PNEC)と各種土壌特性値との関係や、圃場での土壌中金属の可給度の低減現象(エイジング)に由来する実験室データと圃場データの差異などが、実証的なデータに基づいて紹介された。また、これら結果を考慮した、EUにおける土壌中重金属の危険度評価法とその基準値の策定についても、詳細な報告があった。その後、聴講者との間で、活発な議論が展開され、土壌中の金属の生物に対する危険度評価法そのものについて、また日本の土壌の特殊性と評価法との関係などについて、有意義な意見交換が行われた。なお、全ての講演および聴講者との議論は英語で行われた。

最後に、英語でのセミナーに学内で接する機会はまだ少ない状況である中、積極的に参加してくれた聴講者の方々に感謝するとともに、このような機会がさらに増えて、多くの学部学生や大学院生が英語で自由に議論を展開できるようになることを期待したい。また、このような機会を与えて下さった、鴨叡会および学科の各位に感謝申し上げます。

(2011年12月27日 矢内純太)